

2021年
100号



カトリック笹丘教会ニュース

No.0100

命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだすものは少ない。(マタイ7・14)



御国が来ますように



主任司祭

ペトロ・フランシスコ 遠山 満

「御国が来ますように」という言葉は、私達が、毎日唱える主の祈りの一節です。イエスが、弟子達にお教えになった唯一の祈りが主の祈りで、その中の一節ですから、私達にとって、その大切さは、計り知れません。「御国」は、神の国で、神の支配とも言い換える事が出来ます。聖アウグスチノは、世界の歴史を、神の国と地上の国の戦いと捉えています。世界の歴史は、神を愛し、自己を軽んじるに至るまでの神の国と、自己を愛し、神を軽んじるに至るまでの地上の国との闘いであると言うのです。

「御国が来ますように」と祈る時、私達は、時々、私達の心の中の支配欲に目を留める必要があるかと思えます。私達は、誰かに対して、「こうなって欲しい」と期待します。このような欲求は、健全な範囲は良いのだと思えます。けれども、これが度を越えて行けば、相手をコントロールしようとする支配欲と化します。このような支配欲は、星の王子様の中に登場するバオバブの木のように、私達の中で巨大化し、私達を滅ぼします。私達は、それに気が付いていない事も多いので、身近な人に抜き取ってもらう必要があるかと思えます。誰かを変えようとしても、人は簡単には変わりません。それは、私達自身を見ても良く分かります。ですから、誰かに変わってもらいたいと、必死にもがいている自分がいたら、まず自分が変わるように願いましょう。私達自身の上に、まず神の支配が及びますように。私達の思いの成就より、神の思いが、私達の上に、またこの世界に実現しますように祈りましょう。

ところで、イエスは、「金持ちが神の国に入るよりも、ラクダが針の穴を通る方がまだ易しい」(ルカ 18・25)と仰いました。これは、どのような意味なのでしょう。何故イエスは、このように仰ったのでしょうか。それは金持ちの場合、自分の環境や自分の置かれた状況、自分の周囲を、簡単に取り仕切る事が出来るからではないのでしょうか。自分の立場が、簡単に取り仕切れる立場になって行けばいく程、神のお取り仕切りに身を委ねるという事が難しくなっていくと思います。自分が綿密に計画した事が実現しないと、腹が立ってきたりします。そのような時、「自分は神のお取り仕切りに、本当に身を委ねているのだろうか」と、自分自身を振り返るようにしてみましょう。日本で生きる私達は、特にこの事を考える必要があるのではないのでしょうか。



2021年度 信者会総会

2021年5月9日
11時30分～12時30分

去る5月9日、2020年度を締める信者会総会が10時のミサ後、聖堂にて実施された。参加者は41名。この3日後の12日に、今年に入って2回目のコロナ感染拡大防止策、緊急事態宣言によるミサ中止となった。総会が無事実施できたことに感謝したい。

信者会総会議事録

1. 開会 はじめの祈り 議長選出 牧山さん
以下、牧山議長の司会で進められた。
2. 2020年度活動報告 小教区(川原会長) 信徒協(畠山さん) 女性の会(川原さん)
3. 2020年度会計報告 会計報告(田川さん) 監査報告(細川さん)
以上いずれも質疑なし、拍手で承認された。
4. 2021年度役員選出 経過報告および新役員推薦(川原会長)
拍手で承認。新役員8名に遠山神父より任期2年の任命書が授与された。新役員のあいさつ。
5. 2021年度活動計画 旧役員・新役員候補により作成の原案を説明(辻部新会長)
6. 2021年度予算案 会計(田川さん)
<質疑応答>
・ミサ前の体温測定をスタンド型にかえてはどうか? 予備費を使えないか?
・消毒液も出るタイプがよいのでは?
→体温計と消毒液に関して、役員会で検討したい(辻部会長)
・5月23日の司教様の笹丘訪問は、9月4、5日に変更(遠山神父)
2021年度活動計画および予算案が拍手で承認された。
議長解任 以下、司会は辻部会長。
7. 維持費会計報告(維持費会計担当・細川さん) 監査報告(田川さん)
主にミサ献金の収入が減ったことにより、赤字決算だった。
<質疑応答>
・ミサ献金の仕方に工夫が必要なのではないか
→新役員で考えたい(辻部会長)
8. その他
旧役員退任の挨拶(牧山さん、畠山さん、前田さん、喜多村さん、川原さん)
9. 閉会 終わりの祈り

新役員紹介

会長



A-12班 ヨハネ
辻部大介

副会長



C-14班 ベトロ
峯 昭男



A-9班 マリア
金 道野

書記



D-5班 ルカ
井口 剛



B-2班 幼きイ
エスのテレジア
難藤オリコ

女性の会



C-3班
フアチマのマリア
川原圭子

会計



B-11班 ミカエル
田川浩二



D-5班 グレゴリアナ
菅 美樹

任命式

神父様より任命
の書状が新役員
の方々に手渡さ
れました



敬称略



“おにぎりの会”に協力しよう!!

おにぎりの会の正式名称は「NPO 法人ホームレス支援福岡おにぎりの会」と称して事務局は美野島司牧センター内にあります。団体や一般の方からの寄付金で運営しています。(詳しい資料が聖堂の入り口に常時おいてありますので、是非ご覧ください)

このコロナ禍で、生活困窮者が急増し、支援対象者が増え続け、美野島センターだけでは対応が厳しくなっています。

今回、小教区単位で、できる範囲で協力していくことになりました。

小教区で作業することは、ご飯を炊き、パックに詰めることです。(おかずは美野島司牧センターで準備しています) 200食準備します。

5月から11月までの第3週目の金曜を福岡地区のカトリック教会が担当します。第一回目の5月は大名町教会が担当しました。今回は笹丘教会が担当しました。

これからもできることを協力していきましょう

6月18日 笹丘教会でのごはんのパック詰め作業



① 女性の会の川原さんからおにぎりの会の支援の意義と支援内容の説明を受けました



② 炊きあがったご飯を飯用タライに移して冷まします



③ ご飯を165gパックに200食分詰めます



④ 広い場所に整然と並べてゆかりをふりかけます。小さじ7分目くらいです



このご飯パックは冷泉公園等で路上生活者に配られます。生きる力となりますように。



美野島司牧センターでは、外国籍の人、DARC 依存症の人、ホームレスなど日本の社会の中で弱い立場に置かれている人々とつながり、共に歩んでいます

キリストの家族



— 第3回目は水口さんご一家です —

〔11班〕 ペト^{まこと}水口 誠
 ペト^{さとる}水口 悟 マリア 水口 カヨ子

ここでは、水口誠を中心に紹介させていただきます。



誠は、昭和24年生まれ現在71才です。幼児洗礼です。4人兄弟の2番目で水口家の長男です。生後6か月頃、高熱が続き、大学病院の治療にも通い続けましたが、脳に障害が残りました。現在、障がい者1級、介護認定要介護5で、次男である悟一家と同居しています。

若いころは体力、行動力もあったため、どこにでも出かけ、家族は仕事があるため、その行動を始終見守ることができず、ご近所にずいぶん迷惑をかけ、またお世話になりました。家の中も大変でした。

今では、デイサービス利用や、ヘルパーさんと一緒に外出したりして、外でも見守られているようで、家族も気が休まる一時を感じています。外出先では、「今日も元気にしとるね」「白髪が増えとるみたいね」など道行く人から声掛けを頂いているようで嬉しく思います。

同居していた母アンナ水口トシ子は今年3月12日帰天しました。94歳でした。先に帰天した森緑さんと女学校が一緒に仲良くしていました。

天国でも誠のことを心配していると思いますが、私たちがいるから大丈夫と安心して旅立てたと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

引き続き、家族紹介の記事を募集しています。内容は自由です。
教会の事、家庭の事、お仕事、趣味、将来の夢、信仰について等々。
お声掛けさせて頂いた際は、差し支えなければご協力頂けると幸いです。

広報委員一同



「母を看取って・・・」



1 班 マグダレナ・マリア西山淳子

同居していた私の母親を自宅で看取りました。

当初、認知症も進んで、暑い、寒い、痛いなど表現しなくなった母に寂しさや、難しさを感じていました。このような状態になってしまったら、自宅にいかが施設にいかが、関係ないのではないか？適温に保たれた施設内で過ごす方が、本人にストレスがないのではないかと？

しかし、自分は介護福祉士。自宅では、100%目が行き届く。母にとって、これ以上のところはない。母が抵抗して、手に負えなくなったら施設に預けよう。そのような思いでいました。

そして2020年4月頃のことです。母が介護を嫌がり、激しく抵抗する日々が続いていました。私の体力も限界に近づき、先々が不安になったので、いよいよ施設に預けるかなと、まずはその準備段階として、今まで利用していたデイサービスから特養併設多機能型の新しい所へ変えました。その結果、母の抵抗は、私の母への笑顔のない機械的な対応が原因の一つであったことがわかりました。デイサービスを変えたことがきっかけで、(母がそこに慣れて笑顔で過ごせるよう)私自身の母への対応がきめ細かく丁寧なものとなり、それによって母の状態は落ち着いてきたのでした。

しかし、数か月たっても、自宅での発語があまりなく、テレビにも反応を示さない、元気のない状態が続いていました。そんな様子が心配になって、もしかしたら母は元のデイサービスのスタッフや、仲の良かった仲間会いたいのでは？と勤練り、思い切って、元のデイサービスに戻しました。しかし、母の状態は目立って改善はしませんでした。

そんなある時、食事を嫌がる母に「みんなお母さんを思ってるのよ、お母さんの為にやってるのよ」というと、母は「私が苦しい、私が苦しい」と2度はっきり言いました。母は、音は聞こえていても言葉の聞き取りは難しくなっていたにもかかわらず、このようにはっきり応えるとは・・・

私は、ハッとしました。母はもう精一杯生きてきて、もう疲れているのだと・・・。

食事はますます進まなくなっていました。そして、12月6日日曜、全く食事を受け付けなくなりました。下を向いたまま、食器の音がただけで、顔をそむけてしまう状態、取り付く島がない。ついに来た、そう私は判断しました。母の嫌がることはそのまま受け入れ、無理はしない・・・。

「お母さん、もう頑張らなくていいね？ 私も頑張らないね・・・」

その後も、尊敬して信頼する在宅診療のお医者様にアドバイスを受けながら、そして、我が家の立場をよく理解して配慮くださるデイサービスで可能な限りお世話していただきました。

最後を迎える3日前くらいからは、苦しいのか気持ち悪いのか手をパタパタさせ、すごい力で触れたものを握りしめていました。子供たちもお別れをしました。東京在住の兄にも連絡しました。

その状態は2日ほど続きましたが、「どこ？」と言って覚醒した状態が2回ほどありました。その時は、スプーンのわずかな水を求めました。(私は誤嚥を恐れて水滴ほどしか与えませんでした)

24時間前は、喉が干からびたような呼吸になっていました。

見守っているうちに、母がこのように苦しそうにしているのは、「生きたい」と思っているのではないかと、母の命にあきらめをつけてしまっていたことに後悔してきました。

「お母さん!まだ死にたくないんじゃない?!」。反応はありませんでしたが、何か施せば復活するのではと、お医者様に点滴の処置を相談しました。しかし、もうそれは意味のないことのように思いました。そばで見守っている人がいる、その存在を感じさせることが大事だと、苦しそうな母の手をさすったり、口元に水滴をつけたり・・・睡眠剤を口に入れてやれば楽になるのでは・・・など、苦しそうにみえる母をなんとかしてあげたかった・・・。

お医者様は「そんなに苦しまず眠るように逝くでしょう・・・」とおっしゃっていたのに、このように苦しんでみえる姿は、死を間近にして本能的に「助けてー」という気持ちが現れたように思えてなりません。しかし、たとえ延命したとしても、いずれは迎える最後・・・手のかかる家族がまだいるという現実・・・頭の中で色々な思いが交錯しました。

4時間前くらいからは大きな声を上げ直後喉元からガラガラと泡立つような音をさせ、それが断続的に続きました。その後は荒い呼吸となりました。いよいよ最後だ、母にもっとわかるように接していきたい。思いついたのが添い寝でした。母の右横に寝ると、そのとたん母が私の方に向こうとする気配があり、母の右手が私の体にストンと落ち、呼吸も穏やかになったのでした。よかった楽になったんだとホッとしました。それからの経過時間は定かではありません。「お母さん、お母さん!」呼吸は次第に間隔をおいて・・・そして12月13日朝8時7分、呼吸は止まりました。

私はこのように母に添い寝までして看取ったことに、満足とやり切った感がありました。そして母の看取りは、神秘的な体験だったと感動を覚えました。まもなく93歳を迎えようとする人間の力尽きる、死にゆく過程、一気に信仰に結びつくような神秘・・・。説明は難しいですが、教会での葬儀はそんな思いをさらに強めました。

しかし、日が経つにつれ、だんだん後悔と残念な思いが湧いてきました。なんでもっと早く、添い寝を思いつかなかっただろうとか、遠慮せずもっと頻繁に医師に相談して早めに処置すれば本当はもっと長生きできたんじゃないか?寒いまま過ごさせてしまって死期が早まったのでは?母のためと思って行動させたことに無理があったんじゃないか?覚醒して水を求めた時、もっと必死でお水を含ませてあげていたなら・・・。次から次へと後悔の気持ちが湧いてきました・・・。

しかしそんな後悔の念が浮かんで涙するようなことがあっても、教会のミサに授かると、その念は明るい念へと変わり晴れやかな気分となっていました。祈りに包まれることが、まだまだ受け身の信者の私にとって処方箋となっているのでしょうか。教会の意義が身に沁みてわかりました。このように信仰は人間の地上での死を送り出すために必要なもの、私はそう実感し、今でも心に響き続けています。

終わり





親を自宅で看取る、これは私の理想でした。延命治療はしない、これも決めていたことです。しかし、家族でそのように決めていても、実際に親が苦しそうにしていたら、思わず救急車を呼んで、その結果、延命治療の選択をもしてしまった・・・などよく聞きます。訪問診療をうけていることが前提となりますが、まずは訪問医に相談することだと思います。(老人医療、認知症をよく学んであり、在宅診療を推進される医師に出会うのがポイントだと思いました)

私は近くの斎場の会員になっていたのですが、母の葬儀の運びはそこをお願いしました。しかし、残念なことに会員になっていたことは全く無意味でした。ある方が「祖父母の代からS葬儀社を利用して、自分の母親の時も安心してお任せできた」とおっしゃっていました。S葬儀社はカトリックの葬儀に精通した葬儀社で、そのような葬儀社と、前もって関わりを持っておくと後悔がなくてよいと思いました。

母は洗礼を授かりましたが、キリスト教を理解していたとは思えません。しかし、母が息を引き取る前に私が添い寝を思い付き、母と感じ合えたことは、母と私にとって大きなお恵みでした。母は安心して旅立てたと思います。今にして思えば、苦しそうに見えた母の様子は、死に引きずられる不安と最後の別れの伝達のため「そばに来て～」という気持ちの表れだったのではと感じます。見送るときは本人に確実にわかるよう、できる限り触れて、その触れ合う面積が広いほうがよいように思いました。(特に難聴の場合)

母の看取りまでの過程には、数々の導きを感じました。

最期は、長い間通っていたデイサービスにお世話になっていたと思っていましたから、一度変えたデイサービスを思い切って元に戻したことは、常に「まあいいか・・・」でやり過ごしてしまう私にとって、この決断は、導きだったとしか思えません。また、骨折による入院がコロナ禍の前の年だったので、自己中心な考えではありますが、幸いに思いました。満足に面会できない状態なんて、ご家族の皆さんは、さぞお悲しみで、相当なストレスだと察します。

面会できなくて、看取れない状況の場合は、スタッフの方に「ご家族の皆さんが毎日あなたのことを思って祈ってらっしゃいますからね」と常に伝えていただくようお願いするのがいいのではと思います。

教会での「ミサ意向」は亡くなった方への愛情の伝達ということ。遠慮せず依頼するのがいいと思いました。それなりの献金も必要だと思いました。(教会維持のためにも)

西山淳子





「レジオマリエ」をご存じですか？ 第16回



前回は、質問形式でレジオの組織面で伺いました。今回は活動面で伺います。

Q: 病気などで教会に通えない信者さんのところを訪問したり、お便り、声掛けをされていますね？ A: はい。

Q: 訪問するにあたって、気を付けていらっしゃる事があれば教えてください。

A: 訪問先が、施設であれば、責任者の許可を得て、ご自宅でもご家族の同意のもとに訪問するようにしています。

Q: 病院、施設などの訪問で、信者でない方も興味をもって話しかけられたことはありますか？

A: 時々あります。特に神父様をご一緒だと興味を引きやすいです。

Q: 初金のロザリオの祈りは、レジオマリエとしての集まりになりますか？

A: いいえ 初金は、ロザリオ・ミサ共に、信者会女性の会が担当しています。

Q: 会員は何名いらっしゃいますか？

A: 現在は10名です。「福岡クリア」の中では一番多いという現状です。

Q: 活動していて、困ったことやトラブルに見舞われたことなどありませんか？

A: 特にありませんが、10年以上前くらいでしたか、ある施設から訪問を拒否されたことがあったらしいです。ご本人は訪問を希望していたようですが…。

Q: 活動してきて、心に深く残った出来事等あれば教えてください。

A: いつも感動させられるのは、訪問を待っていらっしゃる方々の信仰の深さでしょうか。また、レジオマリエの会員の方の中には、長い間、そのような訪問先の方々のことを心にかけておられる方がいて、そのことにも感動させられます。善きお手本になります。

Q: 看取りなどはいかがでしょう？看取りとか葬儀の件で聞きたいというご希望をいただきました。

A: 会員の中には、訪問先の方と長く家族同様に接してこられた方もいますので、訪問先の方に身寄りがない場合、看取りをして差し上げたこともあります。ただ、基本的にご家族が看取りをなさいますから、そういう例は多くありません。基本的にはレジオマリエはお通夜のお世話をさせていただくことになってはいますが、どなたが、いつ神様に呼ばれるかは予想できませんので、まず、教会から連絡を受けて準備をするようにしています。なるだけ葬儀ミサ・告別式にも参列するようにしています。

教会から長く遠ざかっていた召された方のご家族が、その後、教会に来られるようになることが時々ありますが、本当に喜ばしいことですね。神様からの呼びかけ、働きかけが、届いたのだと思います。

※新型コロナウイルス感染症拡大のため、現在、訪問は中止、集会は、行政や教区の取り決めに従い、中止するか、月1回程度行っています。



*次回はレジオマリエのメンバーの声をご紹介します。



あの時の司牧実習生は 今

“神父様のご健康とご活躍を
お祈りいたしましょう”



ヨセフ青田憲司
神父様

笹丘教会の皆さん、お久しぶりです。長崎教区司祭のヨセフ青田です。早いもので、司祭叙階のお恵みをいたき二年目となりました。コロナ禍での叙階、そして一年目は滑石教会助任司祭として、主に、長崎市北部の、さくらの里教会で司祭生活を送りました。長崎教区で二番目に信徒数が多い小教区。多くの方々に支えられ、滑石教会とさくらの里教会での宣教・司牧に、また教区行事のライブ配信担当と、あっという間の一年間が過ぎました。

今年4月末より、曾根小教区・主任司祭の命を受け、上五島に赴任いたしました。これまで全く縁が無かった土地ですが、主任司祭として、曾根教会、大水教会、小瀬良教会を担当しています。朝早くから教会に集い、熱心に祈る方々に、力をいただいています。

緊急事態宣言が発令され、福岡県内ではミサが非公開となっていると伺いました。まだまだ感染症がいつ収束するのか、その終わりが見えない不安の中で、日々、わたしたちは過ごしています。いまこそお互いのために祈ることが大切です。いつの日か、笹丘教会の皆さまとお会いできることを楽しみに、上五島の地より、毎日のミサを捧げてまいります。

(2018年度 実習生) 6月8日 記

編集後記

新しい笹丘教会設立から作成してきた広報紙の発行が100回目となりました。「こみち」と名称をつけてから不徹底な箇所がありましたので今回訂正しています。表紙右上に「教会だより」と記載していましたが、正しくは「教会ニュース」です。よろしく願いいたします。

(広報委員長 1班 マグダレナ・マリア 西山淳子)

教会ニュースに携わるようになって、心に響く言葉を書き留めることが増えた。これは、2018年の手帳にメモしていたもの→「歩」は「止」と「少」からできている。立ち止まって祈る。祈ってまた少しだけ前に進む。それが「歩く」ことなのだろう(吉野弘) (11班 ソフィア辛嶋文字)

慌ただしい生活の中で誘惑に陥った時、パパ様の言葉が目にとまりました。

“主は、あわれみと親しさと優しさの主です。どうかこのことを忘れないでください。この三つのことばを決して忘れないでください。これらが主のなさりようです。あわれみ、親しき、優しさです”
(8班 マルガリタ 葵)

このコロナ禍にはどのような意味があるんでしょうか?と、ある神父様にお聞きしたら、この本にヒントがあるかもしれないと紹介していただきました。おすすめです。

『希望する力 コロナ時代を生きるあなたへ』(晴佐久昌英・片柳弘史両神父様著、キリスト新聞社)
広報委員に復帰しました。よろしく願いします。 (4班 テレジア 足立志麻)

発行:カトリック笹丘教会 広報委員会

〒810-0034 福岡市中央区笹丘1-16-1 電話 092-761-4504 ファックス 092-761-4524